

平成27年度杉並区事務事業評価表(1)

(00240)

事務事業名称		青少年育成			款	04	項	02	目	01	事業	004	整理番号	249	
現担当課名		児童青少年課			係名		青少年係		連絡先電話番号		4402		昨年度整理番号	240	
上位施策No・施策名										24 子ども・青少年の育成支援の充実		予算事業区分		既定事業	
事務事業の概要	事業開始	昭和29年度													
	平成26年度担当課名	児童青少年課													
	対象	区内在住・在学・在勤の25歳未満の青少年、地域の青少年健全育成団体			根拠法令等	(1)	杉並区青少年善行表彰要綱								
						(2)	杉並区青少年育成委員会補助金交付要綱								
	事業の目的・目標(対象をどのような状態にしたいのか)	善い行いをした青少年及び主にそれらで構成された団体を表彰して区内全体に善意の行為の気運を盛り上げます。青少年育成委員会などの地域の青少年健全育成の活動を助成し、これらの団体が行う事業活動を通して子どもたちが健やかに育つ環境をつります。			活動指標	指標名(1)	青少年健全育成団体の総事業数								
					指標説明	青少年表彰被表彰件数									
					指標名(2)										
					指標説明										
	活動内容(事務事業の内容、やり方、手段)			成果指標	指標名(1)	青少年育成委員会実施事業参加者数									
	善い行いをした青少年を表彰する。青少年健全育成団体に対し補助金及び事業共催分単金を支出する。未成年者の飲酒・喫煙防止啓発イベントを実施する。すぎなみ舞祭の開催				指標説明	区内犯罪・触法少年の検挙・補導件数									
					指標名(2)	目標数値を下回るほど成果があがっているため、達成率が低ければ低いほど評価が高い。									
					指標説明										
区分		単位	平成24年度	平成25年度		平成26年度		平成27年度	平成26年度	対計画比(%)					
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画							
指標	活動指標(1)	1 件	352	400	402	400	473	450	118.3						
	活動指標(2)	2 件	143	150	169	170	186	190	109.4						
	成果指標(1)	3 人	104,196	100,000	98,837	100,000	93,648	100,000	93.6						
	成果指標(2)	4 件	230	200	176	180	149	160	82.8						
総事業費・コスト把握	事業費	5 千円	18,680	19,593	19,358	20,054	19,978	20,675	平成26年度予算執行率(%)	99.6					
	(内)投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	特記事項						
	(内)委託費	7 千円	744	858	707	760	731	787							
	職員数	常勤職員数	8 人	1.97	1.60	2.19	1.60	2.33	2.00						
		再任用職員数	9 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
		非常勤職員数	10 人	0.50	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00						
	人件費	常勤職員分	11 千円	17,139	13,808	18,900	14,096	20,527	17,620						
		再任用職員分	12 千円	0	0	0	0	0	0						
		非常勤職員分	13 千円	1,375	1,390	0	0	0	0						
	総事業費(5+11+12+13)	14 千円	37,194	34,791	38,258	34,150	40,505	38,295							
	単位あたりコスト((14-6)÷1)	15 円	105,665	86,978	95,169	85,375	85,634	85,100							
	財源	受益者負担分	16 千円	0	0	0	0	0	0						
		国からの補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0						
		都からの補助金等	18 千円	289	0	0	0	0	0						
その他の補助金等		19 千円	0	0	0	0	0	0							
特定財源計(16+17+18+19)		20 千円	289	0	0	0	0	0							
差引:一般財源(14-20)		21 千円	36,905	34,791	38,258	34,150	40,505	38,295							
受益者負担比率(16÷14)	22 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0							

平成27年度杉並区事務事業評価表（2）

				整理番号	249
平成26年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内容	規模	単位	事業費(千円)
		青少年善行表彰の表彰状授与及び記念品の贈呈	2	回	812
		青少年育成委員会活動補助金の支出	17	件	17,000
		すぎなみ舞祭実行委員会、ボーイスカウト等事業共催分担金の支出	4	件	1,315
		未成年者の飲酒・喫煙防止啓発イベントの実施	1	回	651
		その他(事業周知用チラシ作成費、郵送料ほか)			200
(2) 事業実績	<p>青少年善行表彰では、地域の多くの団体が当該制度の趣旨を理解し、青少年の善行に対する関心が高まることで、多くの青少年が推薦され表彰することができました。青少年育成委員会に対する助成金を増額したことで、各育成委員会・個々の事業における内容の充実が図られました。ダンスを通じた青少年の交流と地域活性化を目指して開催する「すぎなみ舞祭」は、多くの区民が参加する子どもを対象とした区を代表するイベントに成長しました。</p>				
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>青少年の学校・地域におけるボランティア活動などが、豊かな人間性、社会性を養うために必要であるとの認識が高まっています。一方で、中高校生の生活環境の変化に伴い、情報提供の方法や育成メニューが変化しています。</p>			
	事業に対する意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	<p>地域のつながりが希薄化する中、多くの地域団体が関わっている育成団体が担う役割は重要となっていますが、消費税の増税など事業コストの増加によって、団体の円滑な運営にとって大きな問題となっています。個々の団体が地域の青少年育成の中心となって、子どもたちの健やかな成長を支えていくためには、地域社会全体で活動を支援する体制を築くことが求められています。</p>			
	今後の予測	<p>社会的に自立できない成人を生まないためにも、地域の育成団体や学校等が連携して、青少年が早期に地域社会において積極的に関わり活躍できる機会を創出していきます。</p>			
評価と課題	<p>地域の青少年健全育成は、大人同士・子ども同士の交流が希薄となっている現在において、重要な取組となっています。 近い将来、地域の中で中心的に活躍する人材となり得る中高校生が活躍できる機会は増加傾向にあります。さらにその機会を増やしていくとともに、自らが地域社会の一員としての自覚を持ち、様々な取組に積極的な関わりを持てるよう地域団体への支援を進めることや、事業内容の転換を図ることが課題です。</p>				
中長期的な改善・見直しの方向	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	拡充		
		II 事業の改善の方向性	実施主体の見直し		
	今後の進め方	<p>地域社会における青少年健全育成の中心となって進めてきた、これまでの育成事業の中から育ってきた青少年が、次の世代の良い模範となって事業に関わっていき、将来、育成団体の一員として地域に貢献できるように、中高校生が参加する事業の内容の充実を図っていきます。</p>			

平成27年度杉並区事務事業評価表（１）

（ 00241 ）

事務事業名称 青少年の自立応援・社会参加事業			款 04	項 02	目 01	事業 005	整理番号 250			
現担当課名 児童青少年課		係名 青少年係		連絡先電話番号 4402		昨年度整理番号 241				
上位施策No・施策名 24 子ども・青少年の育成支援の充実						予算事業区分 既定事業				
事業開始 昭和25年度										
平成26年度担当課名 児童青少年課		事業評価区分 一般								
対象 区内在住・在学・在勤の25歳未満の青少年		根拠法令等 (1) (2)		成人祝賀のつどい実施要綱 ユースプロジェクトすぎなみ設置要綱						
事務事業の概要	事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか） 学齢期から就労に至るまでの青少年が、自己有用感や自己肯定感を意識し、社会を構成する主体としての自覚を持ち、自身の力を発揮し、健やかに成長することを旨とする。		活動指標 指標名（1） 指標説明 指標名（2）		成人祝賀のつどい出席者数 自立支援・社会参画事業実施回数					
	活動内容（事務事業の内容、やり方、手段） 学齢期の青少年を対象に、区政への参画や地域情報収集のための取材活動など、体験活動の場や機会を様々な方法で提供する。 区内高等学校に在学する高校2年生を対象として、仕事に関する意識調査を実施する。		成果指標 指標名（1） 指標説明 指標名（2） 指標説明		自立支援・社会参画事業参加人数 各実施事業の参加延べ人数 仕事に関するアンケートの回収率 協力校数÷区内高等学校数					
区分		単位	平成24年度 実績	平成25年度 計画 実績		平成26年度 計画 (目標値) 実績		平成27年度 計画	平成26年度 対計画比(%)	
指標	活動指標（1）	1 人	1,989	2,200	2,169	2,200	2,338	2,200	106.3	
	活動指標（2）	2 回	114	100	68	100	121	100	121.0	
	成果指標（1）	3 人	4,922	5,000	6,322	6,000	6,335	5,000	105.6	
	成果指標（2）	4 %	84	95	84	95	68	90	71.6	
総事業費・コスト把握	事業費	5 千円	10,745	13,221	12,110	11,796	10,885	9,962	平成26年度 予算執行率(%) 92.3	
	(内) 投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	特記事項	
	(内) 委託費	7 千円	7,986	9,332	9,331	8,119	8,091	7,155		
	職員数	常勤職員数	8 人	2.47	2.00	2.48	2.00	1.76	2.00	
		再任用職員数	9 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		非常勤職員数	10 人	0.50	0.50	1.00	1.00	0.00	0.00	
	人件費	常勤職員分	11 千円	21,489	17,260	21,402	17,620	15,506	17,620	
		再任用職員分	12 千円	0	0	0	0	0	0	
		非常勤職員分	13 千円	1,375	1,390	2,780	2,830	0	0	
	総事業費 (5+11+12+13)	14 千円	33,609	31,871	36,292	32,246	26,391	27,582		
	単位あたりコスト (14-6)÷1	15 円	16,897	14,487	16,732	14,657	11,288	12,537		
	財源	受益者負担分	16 千円	0	0	0	0	0	0	
		国からの補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0	
		都からの補助金等	18 千円	0	0	0	0	0	0	
その他の補助金等		19 千円	0	0	0	0	0	0		
特定財源計 (16+17+18+19)		20 千円	0	0	0	0	0	0		
差引：一般財源 (14-20)		21 千円	33,609	31,871	36,292	32,246	26,391	27,582		
受益者負担比率 (16÷14)	22 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

平成27年度杉並区事務事業評価表（2）

				整理番号	250	
平成26年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容		規模	単位	事業費（千円）
		成人祝賀のつどいの実施		1	日	7,500
青少年地域情報サイト「セドル」の開設		1	件	2,118		
ユースプロジェクトすぎなみの運営		24	回	348		
自分をほめようコンクールの実施		1	回	222		
その他（キッズホームページの改修経費、青少年ボランティア体験事業）					697	
事業環境の変化	(2) 事業実績	<p>青少年情報誌「セドル」について、冊子からウェブサイトへ転換し、ネット社会に適応している中・高校生へ必要とする情報を発信する環境を整えることができました。また、ユースプロジェクトすぎなみでは、「中高校生の新たな居場所づくり」をテーマとする研究・検討を行い、当該世代における意識や考えをまとめることができました。成人祝賀の集いについても、1日2回の式典実施への変更に加え、中学校区域単位での参加とする等、参加者にとってより思い出に残り、新成人としての自覚を促す内容とすることができました。</p>				
		<p>不透明な経済状況の中で、若者の多くは就労に対する不安を抱えています。また、選挙権の年齢引き下げに向けた法案成立の動きなど、若者層に対する社会的責任や期待は大きくなっています。</p>				
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>就労に関して不安を感じる意識の変化は、自立や社会参加の遅れを招き、ニートやひきこもりにもつながっていく恐れがあります。成人すると同時に一社会人として自立していけるように、就学期のうちから、将来の目標を持てるような取組みの展開が求められています。</p>				
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	<p>高齢化する地域社会において、中高校生をはじめとする若者の活躍を期待する声は年々高まっており、地域情報サイトを有効に活用した若者への情報伝達を的確に行うことで、地域社会におけるイベント等に参画していく若者が増えていきます。</p>				
	今後の予測	<p>冊子形態の地域情報誌からウェブサイトへの転換は、ネット利用の多い若者世代がより利用しやすいものとするとなり、地域社会への参加促進を図ることができます。今後は、若者が必要とする情報を的確に捉え・伝えていけるよう、当該世代の意識や考えを収集し、生きた情報を提供するとともに、若者世代が地域活動に積極的に参加できる場をつくっていくことが課題です。</p>				
評価と課題		<p>冊子形態の地域情報誌からウェブサイトへの転換は、ネット利用の多い若者世代がより利用しやすいものとするとなり、地域社会への参加促進を図ることができます。今後は、若者が必要とする情報を的確に捉え・伝えていけるよう、当該世代の意識や考えを収集し、生きた情報を提供するとともに、若者世代が地域活動に積極的に参加できる場をつくっていくことが課題です。</p>				
中長期的な改善・見直しの方向	今後の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	拡充			
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）			
	今後の進め方	<p>次代を担う若者の中心的存在として、中高校生が主体的に地域社会に対し関心を持ち、地域の様々な取り組みに参画していけるように、情報を収集・提供していきます。また、情報の収集・発信の手段・方法について、民間事業者のノウハウを活用し、中高校生の活動においてスキルアップができるように取り組んでいきます。</p>				

平成27年度杉並区事務事業評価表(1)

(00269)

事務事業名称 児童青少年センター・児童館事業の運営			款 04	項 02	目 01	事業 033	整理番号 278				
現担当課名 児童青少年課		係名 管理係	連絡先電話番号 4402			昨年度整理番号 269					
上位施策No・施策名 24 子ども・青少年の育成支援の充実						予算事業区分 既定事業					
事業開始	昭和41年度	実行計画事業	目標 05	施策 24	計画事業 03						
平成26年度担当課名	児童青少年課					事業評価区分 一般					
対象	児童青少年センター・児童館・学童クラブ、18歳未満の児童及び保護者、センター及び児童館職員、地域住民の団体		根拠法令等 (1) (2)	児童福祉法第35、40条 杉並区立児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則							
事務事業の概要	事業の目的・目標(対象をどのような状態にしたいのか)		活動指標 指標名(1)	年間延べ利用者数(センター及び児童館)							
	センター、児童館事業の充実を図り利用者の健全な育成を助長する。 中高生の意見等を反映させたセンター運営を図る。 児童館運営に必要な人材(非常勤職員)を確保し、充実した事業展開を図る。 センター及び児童館職員の資質を向上させる。		指標説明 指標名(2)	開館日数(センター及び児童館)							
	活動内容(事務事業の内容、やり方、手段)		指標説明								
	事業運営に必要な事務用品、物品などの購入・支出事務 事業運営(学童クラブ含む)のための非常勤職員の採用・報酬の支出事務 センター及び児童館職員の研修、物品貸出、事故対応(傷害保険等)		成果指標 指標名(1) 指標説明 指標名(2) 指標説明	一日あたり平均利用者数 利用者数÷開館日数 職員実技研修等参加者数							
区分		単位	平成24年度 実績	平成25年度 計画	平成25年度 実績	平成26年度 計画 (目標値)	平成26年度 実績	平成27年度 計画	平成26年度 対計画比(%)		
指標	活動指標(1)	1	人	1,397,301	1,400,000	1,406,605	1,400,000	1,462,950	0	104.5	
	活動指標(2)	2	日	13,804	13,917	13,434	13,917	13,314	0	95.7	
	成果指標(1)	3	人	101	105	105	100	110	0	110.0	
	成果指標(2)	4	人	785	785	892	800	895	0	111.9	
総事業費・コスト把握	事業費	5	千円	276,910	290,901	285,587	311,618	302,946	0	平成26年度 予算執行率(%) 97.2	
	(内)投資的経費等	6	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項 学童クラブに係る委託経費や事務経費等は、「No279学童クラブ事業」で計上しています。 平成27年度から本予算事業は「No280児童健全育成事業」に統合します。	
	(内)委託費	7	千円	401	415	398	487	479	0		
	職員数	常勤職員数	8	人	27.35	26.20	27.80	26.00	27.60		0.00
		再任用職員数	9	人	0.70	0.70	0.00	0.00	0.00		0.00
		非常勤職員数	10	人	0.60	0.60	1.00	1.00	1.00		0.00
	人件費	常勤職員分	11	千円	237,945	226,106	239,914	229,060	243,156		0
		再任用職員分	12	千円	2,751	2,702	0	0	0		0
		非常勤職員分	13	千円	1,650	1,668	2,780	2,830	2,830		0
	総事業費(5+11+12+13)	14	千円	519,256	521,377	528,281	543,508	548,932	0		
	単位あたりコスト((14-6)÷1)	15	円	372	372	376	388	375	0		
	財源	受益者負担分	16	千円	0	0	0	0	0		0
		国からの補助金等	17	千円	0	0	0	0	0		0
		都からの補助金等	18	千円	0	0	0	0	0		0
その他の補助金等		19	千円	0	0	0	0	0	0		
特定財源計(16+17+18+19)		20	千円	0	0	0	0	0	0		
差引:一般財源(14-20)		21	千円	519,256	521,377	528,281	543,508	548,932	0		
受益者負担比率(16÷14)	22	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

平成27年度杉並区事務事業評価表（2）

				整理番号	278	
平成26年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容		規模	単位	事業費（千円）
		パートタイマー報酬		127	人	235,496
		臨時職員賃金		877	人	32,203
		運営事務費		43	施設	27,098
		保険料		53	施設	7,387
		その他（消耗品ほか）				762
(2) 事業実績	<p>児童館や学童クラブの運営に必要なパートタイマー及び臨時職員を安定して確保するとともに、職員の実技研修や職層別研修を実施し、児童館・学童クラブ運営や障害児対応等に従事する職員の資質向上に努めました。</p>					
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>児童館は昭和40年代から設置され、現在では児童青少年センターを含め計42館設置され、地域の子育て拠点としての様々な事業を展開しています。 近年では児童館での乳幼児親子利用が増加しているほか、学童クラブの登録児童数が大幅に伸びるなど利用状況が変化しています。 こうしたニーズ等の変化を踏まえつつ、児童館という限られたスペースの中で、0歳から18歳までの幅広い年齢層を対象とした、全ての機能を確保し、ニーズを満たしたサービスを提供していくのは困難となっています。</p>				
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	<p>児童館は、小学生の安全な居場所としての機能以外にも、乳幼児期から中高生期までの成長支援の場としての機能も担っており、乳幼児利用や、中高生の居場所についての幅広い意見や期待が寄せられています。 学童クラブでは、利用時間の拡大や障害児の受入等に関する要望・意見のほか、行き帰りの安全な小学生の安全な居場所としての機能を求める声も多く寄せられています。</p>				
	今後の予測	<p>家庭や地域における養育力が低下する中、乳幼児親子が身近に集い、交流や情報交換を行える場と機会の提供や、小学生にだけでなく、中高生の居場所を確保するなど、子どもたちの発達段階に応じた多様なサービスの提供が求められます。 女性の社会進出による共働き世帯の増加や、保育需要の増大、就労形態の多様化により学童クラブの需要は一層増していくものと予想されます。加えて、行き帰りの安全面の観点から、学校内への設置を求める声も更に増えていくと予想されます。</p>				
評価と課題	<p>児童館や学童クラブの運営に必要な人材を確保し、適切な人員配置するとともに、職員研修等を通じた職員の育成を進め、児童館運営・学童クラブ事業の質の維持・向上に努めました。 今後も乳幼児から中高生までの幅広い年齢層の健全育成や、学童クラブの需要に即した対応をしていくために、人材の安定的な確保と研修等による人材育成体制の強化を図ります。</p>					
中長期的な改善・見直しの方向	今後の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持			
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）			
今後の進め方	<p>児童の安全・安心な生活の場を提供するため、施設の利用実態や学童クラブ登録児童数に応じた職員配置するとともに、職員の能力を活かした事業の実施、意欲の向上に資する研修体制の構築、各施設への巡回相談等による質の維持・向上に努めます。 再編後の児童館施設等を活用し、乳幼児親子を主な対象とした地域子育て支援拠点とする、（仮称）子どもセンターを整備します。また、地域や施設の特性を踏まえ、段階的に機能拡張を図ります。</p>					

平成27年度杉並区事務事業評価表（1）

（00270）

事務事業名称		学童クラブ事業			款	04	項	02	目	01	事業	034	整理番号	279	
現担当課名		児童青少年課			係名		管理係		連絡先電話番号		4402		昨年度整理番号	270	
上位施策No・施策名										24 子ども・青少年の育成支援の充実		予算事業区分		既定事業	
事務事業の概要	事業開始		昭和39年度												
	平成26年度担当課名		児童青少年課			事業評価区分		一般							
	対象		保護者が共働きなどで留守家庭となる区内在住・在学の小学一年生から四年生までの児童及び六年生までの特別支援児童			根拠法令等		(1) 児童福祉法第六条の三第2項 (2) 杉並区児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則							
	事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか）		子どもたちがともに育つ中で、自らの可能性を發揮し、健やかに成長するよう支援する。学童クラブを利用して保護者が安心して楽しく子育てができるよう支援する。			活動指標		指標名（1） 入会児童数 指標説明 指標名（2） 入会障害児童数							
	活動内容（事務事業の内容、やり方、手段）		共働き等により保護者が留守となる家庭の児童に対して、一人ひとりが尊重され、安心して安全に過ごせる居場所を学童クラブで提供する。			成果指標		指標名（1） 待機児童数 指標説明 翌年4月時点の待機児童数 指標名（2） 指標説明							
区分		単位	平成24年度	平成25年度		平成26年度		平成27年度	平成26年度						
			実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	対計画比(%)						
指標	活動指標（1）		1	人	3,207	3,432	3,331	3,618	3,621	3,738	100.1				
	活動指標（2）		2	人	110	144	122	147	128	140	87.1				
	成果指標（1）		3	人	70	0	49	0	87	0	0.0				
	成果指標（2）		4												
総事業費・コスト把握	事業費		5	千円	234,286	259,944	252,801	293,003	287,791	301,333	平成26年度 予算執行率(%) 98.2				
	(内) 投資的経費等		6	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項				
	(内) 委託費		7	千円	205,545	228,530	223,083	258,224	256,811	266,644					
	職員数	常勤職員数		8	人	75.40	72.56	80.60	76.20	80.20	76.50				
		再任用職員数		9	人	2.32	2.31	1.00	1.00	1.00	1.00				
		非常勤職員数		10	人	8.00	8.00	2.00	2.00	2.00	2.00				
	人件費	常勤職員分		11	千円	655,980	626,193	695,578	671,322	706,562	673,965				
		再任用職員分		12	千円	9,118	8,917	3,860	4,050	4,050	4,050				
		非常勤職員分		13	千円	22,000	22,240	5,560	5,660	5,660	5,660				
	総事業費 (5+11+12+13)		14	千円	921,384	917,294	957,799	974,035	1,004,063	985,008					
	単位あたりコスト (14-6)÷1		15	円	287,304	267,277	287,541	269,219	277,289	263,512					
	財源	受益者負担分		16	千円	95,003	101,775	100,370	110,230	112,000	152,952				
		国からの補助金等		17	千円	0	0	0	0	0	0				
		都からの補助金等		18	千円	9,679	6,241	6,538	6,593	7,675	7,666				
その他の補助金等		19	千円	0	0	0	0	0	0						
特定財源計 (16+17+18+19)		20	千円	104,682	108,016	106,908	116,823	119,675	160,618						
差引：一般財源 (14-20)		21	千円	816,702	809,278	850,891	857,212	884,388	824,390						
受益者負担比率 (16÷14)		22	%	10.3	11.1	10.5	11.3	11.2	15.5						

平成27年度杉並区事務事業評価表（2）

				整理番号	279	
平成26年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容		規模	単位	事業費（千円）
		学童クラブ委託		11	所	251,289
		民間学童クラブ運営費助成		2	所	16,714
		おやつ代助成		724	人	13,874
		その他（事務費ほか）				5,914
(2) 事業実績	<p>児童福祉法の改正による対象学年の拡大等への対応や、学童クラブ設備及び運営に関する基準の条例化などの対応を行いました。また、平成26年4月から高二学童クラブを新たに開設し、委託事業者による運営を開始するとともに、平成27年4月から杉並和泉学園内に開設する和泉学園学童クラブの開設準備に取り組みました。</p>					
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>児童数は、近年横ばい傾向で推移しているにもかかわらず、学童クラブ入会希望者数及び入会者数は増加傾向にあります。このため、第二学童クラブの設置、施設改修による定員増及び学童クラブ登録制を実施しました。一方、定員増などの対応を重ねてきましたが、入会希望者の多い学童クラブでは、既存の施設ではこれ以上の受入れが困難となりつつあります。</p>				
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	<p>児童の行き帰りの安全面から、学童クラブを小学校内へ移転して欲しいとの声や、就労形態の多様化により利用時間の延長を求められるなど、より安全・安心な運営や利便性の高いサービスの提供を求める声が多くなっています。また、障害児の受入等に関する要望も寄せられています。</p>				
	今後の予測	<p>女性の社会進出による共働き世帯の増加や就労形態の多様化を背景として、保育需要は高まっています。こうした影響もあり、学童クラブの需要も増加していくものと予測されます。また、行き帰りの安全面等の観点から、学校内への移転・設置を求める声も増加することが予想されます。</p>				
評価と課題	<p>高井戸第二小学校内に整備した高二学童クラブについて、円滑な運営を進めることができました。また、新泉学童クラブの杉並和泉学園内への移転についても、開設に向けた準備を進め、平成27年4月から和泉学園学童クラブとして開設しました。今後も、学童クラブへの需要が高まりにより、学童クラブの規模も大きくなっていくことが予想され、規模に係わらずより質の高い運営を安定的に進めていきます。</p>					
中長期的な改善・見直しの方向	今後の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	拡充			
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）・対象の見直し			
	今後の進め方	<p>学童クラブの整備については、今後も学校内への整備を基本としつつ、施設再編整備計画に基づき着実に実施していきます。こうした取組とあわせて、需要増が顕著な地域を中心に、児童館施設の活用による受入枠の拡大を図るなど、当面の学童クラブの需要増に対応していくとともに、質の高い運営にも努めていきます。</p>				

平成27年度杉並区事務事業評価表(1)

(00271)

事務事業名称 児童健全育成事業			款 04	項 02	目 01	事業 035	整理番号 280			
現担当課名 児童青少年課		係名 児童館運営係 事業係		連絡先電話番号 4402		昨年度整理番号 271				
上位施策No・施策名 24 子ども・青少年の育成支援の充実						予算事業区分 既定事業				
事業開始 昭和41年度										
平成26年度担当課名 児童青少年課		事業評価区分 一般								
対象 18歳未満の児童及び保護者		根拠法令等 (1) 児童福祉法第35、40条 (2) 杉並区立児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則								
事務事業の概要	事業の目的・目標(対象をどのような状態にしたいのか) 児童館事業を通じ、児童の自主性、社会性、創造性を 培い、健やかな成長を支援する。 児童青少年センターが中高生の自由な居場所として機能 できるよう運営を充実させます。また、中高生が仲間との 交流や自主企画事業の実施を通じ、社会適応能力が高 められるよう支援する。		活動指標 指標名(1) 児童館年間延べ行事参加者数 指標説明 指標名(2) 児童青少年センターの講座・講演会開催回数 及び自主企画実施回数							
	活動内容(事務事業の内容、やり方、手段) 児童館の自由利用のほか、定例活動(工作、調理 等)や、特別行事(スポーツ大会・遠足・講演会・祭 り・キャンプ等) 児童青少年センターの各種事業(職員企画、中高 校生企画、中高校生運営委員会企画)、各企画の実 施。		成果指標 指標名(1) 行事平均参加者 指標説明 年間行事参加者数(294,935人)÷年間行事実施回数(13,6 96回) 指標名(2) 児童青少年センターの講座・講演会参加者数 及び自主企画参加者数							
区分		単位	平成24年度 実績	平成25年度 計画 実績		平成26年度 計画(目標値) 実績		平成27年度 計画	平成26年度 対計画比(%)	
指標	活動指標(1)	1 人	274,066	230,000	270,155	230,000	294,935	250,000	128.2	
	活動指標(2)	2 回	498	520	508	520	1,743	1,500	335.2	
	成果指標(1)	3 人	22.5	25	22.0	23	21.5	23	93.5	
	成果指標(2)	4 人	6,973	7,000	8,502	7,000	9,922	9,000	141.7	
総事業費・コスト把握	事業費	5 千円	25,293	27,632	25,664	28,011	26,841	410,202	平成26年度 予算執行率(%) 95.8	
	(内)投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	特記事項	
	(内)委託費	7 千円	912	1,229	1,022	1,197	909	7,541		
	職員数	常勤職員数	8 人	93.94	89.81	91.50	86.00	90.20	86.30	
		再任用職員数	9 人	2.60	2.59	2.00	2.00	2.00	2.00	
		非常勤職員数	10 人	55.60	55.60	68.50	68.50	68.50	68.50	
	人件費	常勤職員分	11 千円	817,278	775,060	789,645	757,660	794,662	760,303	
		再任用職員分	12 千円	10,218	9,997	7,720	8,100	8,100	8,100	
		非常勤職員分	13 千円	152,900	154,568	190,430	193,855	193,855	193,855	
	総事業費 (5+11+12+13)	14 千円	1,005,689	967,257	1,013,459	987,626	1,023,458	1,372,460		
	単位あたりコスト (14÷6)÷1)	15 円	3,670	4,205	3,751	4,294	3,470	5,490		
	財源	受益者負担分	16 千円	0	0	0	0	0	0	
		国からの補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0	
		都からの補助金等	18 千円	0	0	0	0	0	0	
その他の補助金等		19 千円	0	0	0	0	0	0		
特定財源計 (16+17+18+19)		20 千円	0	0	0	0	0	0		
差引：一般財源 (14-20)		21 千円	1,005,689	967,257	1,013,459	987,626	1,023,458	1,372,460		
受益者負担比率 (16÷14)	22 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

平成27年度杉並区事務事業評価表（2）

				整理番号	280	
平成26年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容		規模	単位	事業費（千円）
		児童青少年センター事業		1,743	回	4,124
		児童館中・高校生事業		357	回	1,714
		児童館事業		13,339	回	20,764
		その他（ ）				239
(2) 事業実績	<p>全児童館での館内外の活動を始め、地域団体と連携した事業や、高齢者・障害者との交流事業など、多彩な活動を利用者・ボランティア・関係団体等と協働で展開し、子どもの地域の居場所として、遊びを通じた成長を支援しました。</p> <p>児童青少年センターでは、自主企画実現システムの充実とプランナー企画（利用者と職員の協働事業）の導入によって事業を展開しました。また、ゆう杉並を卒業したOB・OGの活用による子ども交流事業やピアサポート事業を展開し、より良い中高生の居場所としての取組みに努めました。</p>					
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>児童館は昭和40年代から設置され、現在では児童青少年センターを含め計42館設置され、地域の子育て拠点としての様々な事業を展開しています。中でも児童青少年センターは全国に先駆け設置された中高生向けの児童館として様々な事業を展開しています。</p> <p>近年では児童館での乳幼児親子利用が増加しているほか、中高生の居場所についての機能が求められる等、利用状況が変化しています。</p> <p>こうしたニーズ等の変化を踏まえつつ、児童館という限られたスペースの中で、0歳から18歳までの幅広い年齢層を対象とした、全ての機能を確保し、ニーズを満たしたサービスを展開していくのは困難となっています。</p>				
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	<p>児童館は、小学生の安全な居場所としての機能以外にも、乳幼児期から中高生期までの成長支援の場としての機能も担っており、乳幼児利用や、中高生の居場所についての幅広い意見や期待が寄せられています。</p> <p>また、児童青少年センターは、数少ない中高生向けの児童館として、中高校生の身近な相談場所・居場所としての機能を提供し、高い評価を頂いていますが、中高生の居場所についての要望は増加しており、今後もこれらの機能の充実が求められています。</p>				
	今後の予測	<p>子育てに不安を抱える保護者も多くいる中で、地域での関係の希薄化などにより、乳幼児親子が身近な地域で気軽に集い、交流や情報交換等が行える場と機会の提供が求められます。また、中高生の居場所の確保など、子どもたちの発達段階に応じた多様なサービスの提供が求められることが予測されます。</p>				
評価と課題	<p>子どもの健やかな育成を支援するため様々なプログラム等を実施し、健全な遊び場の提供に努めました。また、中高生向けの児童館である、ゆう杉並では、中高生の自主企画事業や利用者との協働事業を実施することで、より魅力的な事業を展開することができました。</p> <p>学童クラブ需要の増、乳幼児親子の児童館利用の増加など、児童館の利用実態が変化中、多様化する利用者のニーズを捉え、幅広い年齢層の健全育成を図るため、児童館という施設に捉われず、これまで担ってきた機能・サービスを継承し、充実・発展させていくための取組を進めます。</p>					
中長期的な改善・見直しの方向	今後の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持			
	II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）				
今後の進め方	<p>全ての児童への育成支援を実現するため、児童健全育成事業の実施方法等について、これまで児童館が果たしてきた役割・機能を継承しながら、的確な個別支援が可能となるよう再構築します。また、乳幼児親子を主な対象とした地域子育て支援拠点として整備する（仮称）子どもセンターをにおいて、児童館機能の充実・発展に資する取組みを段階的に進めていきます。</p>					

平成27年度杉並区事務事業評価表(1)

(00272)

事務事業名称 児童館地域子育て推進			款 04	項 02	目 01	事業 036	整理番号 281			
現担当課名 児童青少年課		係名 児童館運営係		連絡先電話番号 4402		昨年度整理番号 272				
上位施策No・施策名 24 子ども・青少年の育成支援の充実						予算事業区分 既定事業				
事業開始 昭和52年度										
平成26年度担当課名 児童青少年課				事業評価区分 一般						
対象 18歳未満の児童、保護者及び児童の健全育成に資する団体、グループ、18歳以上の個人		根拠法令等 (1) 児童福祉法第35、40条 (2) 杉並区立児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則								
事務事業の概要	事業の目的・目標(対象をどのような状態にしたいのか) 子育てを通じた人と人とのつながりをつくる。 子育て情報の交換・提供を行う。 子ども自身のネットワークへの参加を支援する。 子育てに関わる機関を地域に開かれた区民に親しまれるものにする。 関係行政機関の連携を強化する。		活動指標 指標名(1) ゆうキッズ事業実施回数 指標説明 指標名(2) ネットワーク事業実施数							
	活動内容(事務事業の内容、やり方、手段) 乳幼児親子のくつろぎの居場所としての児童館環境の整備 親子で楽しめるプログラムや行事、子育て講演会、相談活動の実施 虐待の予防と発見 地域子育てネットワークづくり		成果指標 指標名(1) ゆうキッズ事業参加者数(保護者も含む) 指標説明 指標名(2) ネットワーク事業参加者数							
区分		単位	平成24年度実績	平成25年度計画	平成25年度実績	平成26年度計画(目標値)	平成26年度実績	平成27年度計画	平成26年度対計画比(%)	
指標	活動指標(1)	1 回	11,433	11,500	11,221	11,500	11,143	0	96.9	
	活動指標(2)	2 回	1,455	1,500	1,480	1,500	1,668	0	111.2	
	成果指標(1)	3 人	368,498	360,000	370,904	365,000	395,131	0	108.3	
	成果指標(2)	4 人	100,015	117,000	101,293	117,000	125,670	0	107.4	
総事業費・コスト把握	事業費	5 千円	11,759	13,503	12,704	13,532	12,805	0	平成26年度予算執行率(%) 94.6	
	(内)投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	特記事項 平成27年度から本予算事業は「No280児童健全育成事業」に統合します。	
	(内)委託費	7 千円	4,909	5,374	5,005	5,385	4,953	0		
	職員数	常勤職員数	8 人	22.94	22.00	23.20	21.50	23.10		0.00
		再任用職員数	9 人	0.70	0.70	2.00	2.00	2.00		0.00
		非常勤職員数	10 人	0.20	0.20	0.50	0.50	0.50		0.00
	人件費	常勤職員分	11 千円	199,578	189,860	200,216	189,415	203,511		0
		再任用職員分	12 千円	2,751	2,702	7,720	8,100	8,100		0
		非常勤職員分	13 千円	550	556	1,390	1,415	1,415		0
	総事業費(5+11+12+13)	14 千円	214,638	206,621	222,030	212,462	225,831	0		
	単位あたりコスト((14-6)÷1)	15 円	18,774	17,967	19,787	18,475	20,267	0		
	財源	受益者負担分	16 千円	0	0	0	0	0		0
		国からの補助金等	17 千円	0	0	0	0	0		0
		都からの補助金等	18 千円	0	0	0	0	0		0
その他の補助金等		19 千円	0	0	0	0	0	0		
特定財源計(16+17+18+19)		20 千円	0	0	0	0	0	0		
差引:一般財源(14-20)		21 千円	214,638	206,621	222,030	212,462	225,831	0		
受益者負担比率(16÷14)	22 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

平成27年度杉並区事務事業評価表（2）

				整理番号	281	
平成26年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容		規模	単位	事業費（千円）
		ゆうキッズ事業		41	館	10,446
		地域子育てネットワーク事業		41	館	1,690
		児童館ボランティア運営		1,389	人	49
		母親クラブ活動費助成		13	団体	620
		その他（ ）				
	(2) 事業実績	<p>虐待防止子育て相談事業「コーチング講座」や、「タッチケア講座」を子ども家庭支援センターと連携して実施しました。</p> <p>全児童館で生後間もない乳児親子向けプログラムを、関係機関や主任児童委員、民生委員、地域ボランティア等の協力を得て実施し、保護者の不安感や負担感の軽減、子育て力の向上を支援しました。</p> <p>子育てネットワーク事業として、まつり、もちつき、キャンプ、防災訓練等、世代を超えた交流を実施するとともに、児童館での中高生と赤ちゃんのふれあい事業も実施しました。</p>				
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>平成11年子育てネットワーク事業開始。</p> <p>平成13年10月ゆうキッズ事業開始。</p> <p>平成20年高井戸児童館ゆうキッズ事業委託開始</p> <p>平成23年ゆうキッズ再構築、児童虐待未然防止部内調整。</p> <p>平成23年9月ゆうキッズスタート全館実施。</p>				
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	<p>核家族化や地域の間人関係の希薄化の進行に伴い、子育てに不安や負担を抱える保護者が少なくない中で、乳児親子が集い、交流できる場を求める声が高まっています。</p>				
	今後の予測	<p>地域子育てネットワーク事業では、子育てを通じた人と人のつながり作りを進めています。児童虐待未然防止のため、関係機関と連携のもと、地域ぐるみの子育て支援を推進していくことが求められています。</p> <p>乳幼児親子が参加するゆうキッズ事業は利用者が増加傾向にあり、乳幼児親子が身近な地域で集い、交流や情報交換等が行える場と機会の確保・充実を更に求められます。</p>				
	評価と課題	<p>子育てに不安を感じる保護者が増えている中、子育てを通じた人と人とのつながり作りを進める地域子育てネットワーク事業及び乳幼児親子のためのゆうキッズ事業は、地域の子育て力の向上において、重要な役割を果たしてきました。</p> <p>今後も、関係機関と連携した地域ぐるみの子育て支援を推進するとともに、児童館を活用した（仮称）子どもセンターを整備するなど、これまで児童館が担ってきた機能・サービスを充実・発展させ、地域の子育て支援の拠点づくりを進めます。</p>				
中長期的な改善・見直しの方向	今後の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持			
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）・実施主体の見直し			
	今後の進め方	<p>地域子育てネットワーク事業やゆうキッズ事業について、事業の進め方や内容を精査し、地域ぐるみでの子育て支援体制づくりに努めていくため、子育て支援事業者や団体・自主グループとの協働を進める方向で、今後のあり方を検討・具体化していきます。</p> <p>乳幼児親子を主な対象とした地域子育て支援拠点とする（仮称）子どもセンターを整備していきます。</p> <p>児童館再編の取組が実現するまでの間は、児童館で事業を実施する中で、地域や施設の特性を踏まえ、段階的に子育て支援に資する機能拡張を図ります。</p>				

平成27年度杉並区事務事業評価表（1）

（00273）

事務事業名称		子ども国内交流事業			款	04	項	02	目	01	事業	037	整理番号	282	
現担当課名		児童青少年課			係名	事業係			連絡先電話番号	4402		昨年度整理番号	273		
上位施策No・施策名										24 子ども・青少年の育成支援の充実		予算事業区分	既定事業		
事務事業の概要	事業開始	平成 2年度													
	平成26年度担当課名	児童青少年課										事業評価区分	一般		
	対象	区内在住の小学生（4～6年生）			根拠法令等	(1)		杉並区立児童青少年センター及び児童館事業運営要綱							
					根拠法令等	(2)		杉並区都市交流実施要綱							
	事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか）	子ども同士の交流を通して、友好都市の文化、生活、風土等の理解を深めることにより、児童の健全育成を図る。			活動指標	指標名（1）		参加者数							
				指標説明	指標名（2）										
活動内容（事務事業の内容、やり方、手段）	名寄市との交流会 東吾妻町との交流会			指標説明	指標名（1）		応募者数								
				指標説明	指標名（2）										
区分		単位	平成24年度	平成25年度		平成26年度		平成27年度	平成26年度						
			実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	対計画比(%)						
指標	活動指標（1）	1 人	50	50	50	50	50	50	100.0						
	活動指標（2）	2													
	成果指標（1）	3 人	167	200	139	150	144	150	96.0						
	成果指標（2）	4													
総事業費・コスト把握	事業費	5 千円	4,825	5,620	5,498	5,742	5,691	6,870	平成26年度 予算執行率(%)	99.1					
	(内) 投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	特記事項						
	(内) 委託費	7 千円	0	0	0	0	0	0							
	職員数	常勤職員数	8 人	1.00	0.93	1.10	1.00	1.00	1.00						
		再任用職員数	9 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
		非常勤職員数	10 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
	人件費	常勤職員分	11 千円	8,700	8,026	9,493	8,810	8,810	8,810						
		再任用職員分	12 千円	0	0	0	0	0	0						
		非常勤職員分	13 千円	0	0	0	0	0	0						
	総事業費 (5+11+12+13)	14 千円	13,525	13,646	14,991	14,552	14,501	15,680							
	単位あたりコスト (14-6)÷1	15 円	270,500	272,920	299,820	291,040	290,020	313,600							
	財源	受益者負担分	16 千円	0	0	0	0	0	0						
		国からの補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0						
		都からの補助金等	18 千円	0	0	0	0	0	0						
その他の補助金等		19 千円	2,794	2,052	2,104	2,677	2,762	3,241							
特定財源計 (16+17+18+19)		20 千円	2,794	2,052	2,104	2,677	2,762	3,241							
差引：一般財源 (14-20)		21 千円	10,731	11,594	12,887	11,875	11,739	12,439							
受益者負担比率 (16÷14)	22 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0								

平成27年度杉並区事務事業評価表（2）

				整理番号	282
平成26年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
		杉並区・名寄市子ども交流会	2	回	5,046
		杉並区・東吾妻町子ども交流会	1	回	645
		その他（ ）			
(2) 事業実績	名寄市との交流会（7月名寄編：3泊4日、8月杉並編：3泊4日 25名） 東吾妻町との交流会（8月東吾妻編：3泊4日 25名）				
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	名寄市との交流は杉並区の中学生在が北海道風連町を冬に訪ねる「しばれ体験」として始まり、平成5年には風連町の小学生を杉並区に受け入れ、平成8年から現在のような相互訪問となり、平成18年に風連町が名寄市との合併により現在の事業名になりました。また、都内見学を実施し社会見学の要素も取り入れた事業を実施しています。 東吾妻町子ども交流会は平成2年吾妻町との交流事業として始まり、杉並・吾妻で相互訪問を行う形で実施していましたが平成12年から1年毎の交互の訪問方式になりました。 平成24年度から次世代育成基金活用事業としています。			
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	定員を超える参加申し込みがあります。また、参加費を徴収しても良いので、毎年申込できるようにしてほしい等の意見も寄せられており、両交流会への高い人気が見えます。 また、参加児童は「楽しかった」「友達が出来た」「来年も参加したい」「農業体験できてよかった」など好評価を頂いています。			
	今後の予測	次世代育成基金活用事業としての認知度も高まっており、今後も定員を超える応募が予想されることから、参加人数や事業内容の一層の充実に向けた検討が必要となります。			
評価と課題	同世代の子どもたちが生活を共にし、普段とは異なる文化や生活様式を体験することで、社会に対して広い視野を持つうえで大きな効果があります。また、双方の自治体にとっても、子ども同士の交流は、将来にわたっての自治体交流の布石として大きな意義があるものとなっています。 今後は、参加者にとって、更に意義ある交流事業となるようなプログラムの検討を進めていくほか、参加人数の拡大など、子どもたちが交流事業に参加する機会を増やしていくことが課題です。				
中長期的な改善・見直しの方向	今後の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持		
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）		
今後の進め方	子ども同士が生活を共にして、各々の都市の文化や生活を肌で感じることは、自治体交流の一端を担ううえで大きな意義があります。交流プログラムについては、参加者にとって、更に意義ある交流事業となるよう検討を進めていきます。また、平成27年度から、東吾妻交流会については同一年度内での相互交流を行い、内容の充実を図ります。				

平成27年度杉並区事務事業評価表（1）

（00282）

事務事業名称 次世代育成基金の運営			款 04	項 02	目 01	事業 050	整理番号 291			
現担当課名 児童青少年課		係名 青少年係		連絡先電話番号 4402		昨年度整理番号 282				
上位施策No・施策名 24 子ども・青少年の育成支援の充実						予算事業区分 既定事業				
事業開始 平成24年度		実行計画事業 目標 05 施策 24 計画事業 01			主要事業（区政経営報告書掲載事業）					
平成26年度担当課名 児童青少年課					事業評価区分 一般					
対象 区内の小・中学生、支援する大人		根拠法令等 (1) (2)		杉並区次世代育成基金条例 杉並区次世代育成基金推進会議設置要綱						
事務事業の概要	事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか） 子どもたちの健やかな育成を支援するため、国内外の自然・文化・芸術の体験やスポーツ交流の機会を創出するための取り組みに基金を活用する。 基金を永続的に健全な運営するため、基金の趣旨を多くの区民に伝え、理解・賛同を得て寄附を募り、地域社会全体で子どもの成長を支える気運を醸成する。		活動指標 指標名（1） 指標説明 指標名（2）		基金活用事業件数 基金活用事業参加者募集（定員）数					
	活動内容（事務事業の内容、やり方、手段） 区内の小・中学生を対象とした国内外の交流都市・自治体との交流事業や自然体験事業の実施に対し子どもの参加に係る経費の2分の1を基金から充当する。 基金の趣旨を広く区民に周知し賛同を得て、寄附を募っていく。		成果指標 指標名（1） 指標説明 指標名（2） 指標説明		基金活用事業参加児童・生徒数 寄附者件数					
区分		単位	平成24年度 実績	平成25年度 計画 実績		平成26年度 計画 実績		平成27年度 計画	平成26年度 対計画比(%)	
指標	活動指標（1）	1 件	4	5	5	6	6	7	100.0	
	活動指標（2）	2 人	147	152	148	165	190	250	115.2	
	成果指標（1）	3 人	143	152	148	165	207	250	125.5	
	成果指標（2）	4 件	35	150	221	1,000	419	1,000	41.9	
総事業費・コスト把握	事業費	5 千円	79,230	34,014	34,002	19,103	19,064	21,577	平成26年度 予算執行率(%) 99.8	
	（内）投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	特記事項	
	（内）委託費	7 千円	0	10	6	10	10	300		
	職員数	常勤職員数	8 人	1.23	1.00	1.31	0.50	1.45	1.00	
		再任用職員数	9 人	0.00	0.00	0.00	1.00	1.00	1.00	
		非常勤職員数	10 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	人件費	常勤職員分	11 千円	10,701	8,630	11,305	4,405	12,775	8,810	
		再任用職員分	12 千円	0	0	0	4,050	4,050	4,050	
		非常勤職員分	13 千円	0	0	0	0	0	0	
	総事業費 (5+11+12+13)	14 千円	89,931	42,644	45,307	27,558	35,889	34,437		
	単位あたりコスト (14-6)÷1	15 円	22,482,750	8,528,800	9,061,400	4,593,000	5,981,500	4,919,571		
	財源	受益者負担分	16 千円	0	0	0	0	0	0	
		国からの補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0	
		都からの補助金等	18 千円	0	0	0	0	0	0	
その他の補助金等		19 千円	4,628	5,347	30,642	10,229	10,867	10,167		
特定財源計 (16+17+18+19)		20 千円	4,628	5,347	30,642	10,229	10,867	10,167		
差引：一般財源 (14-20)		21 千円	85,303	37,297	14,665	17,329	25,022	24,270		
受益者負担比率 (16÷14)	22 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

平成27年度杉並区事務事業評価表（2）

整理番号 291

		内 容	規模	単位	事業費（千円）
平成26年度の事業実施状況	(1) 主な取組	基金の積立	1	回	18,592
		郵便振替用紙付応援寄附募集リーフレット作成(26年度版)	30,000	部	462
		その他（寄附者宛お礼状の送付）			10
	(2) 事業実績	<p>アスリートを志す小・中学生を対象として、オリンピック出場経験のあるトップアスリートによるオリンピック・パラリンピック種目の体験、技術指導やトップアスリートを支える人たちの職業体験など、新規事業トップアスリート育成・支援事業として実施した「チャレンジアスリート」に基金を活用し、新たなスポーツ分野における子どもたちの将来の夢や希望を見出すきっかけを創出しました。また、次世代育成基金プロモーションビデオを制作し、法人・団体が多く集う賀詞交歓会や団体等における会合で上映し、応援寄附への関心を深めることができました。</p>			
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>子どもたちの夢を育むために、様々な分野での体験や交流の取り組みを実施し、年々事業への参加者が増えています。多くの区民が基金の趣旨を理解し賛同を得るために、郵便振替用紙付き応援寄附募集チラシの作成や地域のイベントにおける事業PRなどを行い、平成26年度には次世代育成基金プロモーションビデオを制作し、賀詞交歓会などで上映するなど、応援寄附募集に係る様々な取り組みにより寄附者の数も徐々に増加しています。</p>			
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	<p>基金の永続的に安定した運営を確保するためには、区民等からの応援寄附は必要であり、基金の趣旨を広く伝えていくとともに、理解が得られるような活用事業内容の充実が求められています。また、寄附者からは、国際社会における子どもたちの活躍を期待する声が寄せられています。</p>			
	今後の予測	<p>2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた事業の実施等、国際的な視点を捉えた事業内容の検討が求められます。また、より多くの子どもたちが参加機会を得ることができるよう、事業内容の拡大・充実に努めることが求められます。</p>			
評価と課題	<p>チャレンジアスリート事業の実施や海外留学の参加者定員の増加など、様々な分野でも子どもたちの育成事業を展開し、効果的な活用事業への支援をすることができました。今後も基金を安定して運営していくためには、多くの区民の賛同を得られるよう、一層の周知に努めるとともに、民間事業者の提案を活用した実施メニューの充実に努めていきます。</p>				
中長期的な改善・見直しの方向	今後の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	拡充		
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）・実施主体の見直し		
	今後の進め方	<p>基金を活用する事業において、広い分野で様々な体験をする子どもたちを増やしていくよう、民間事業者からの提案公募を行い、取組を支援していきます。また、応援寄附者の思いを事業参加者に伝え、事業内容に反映させていくとともに、寄附者や区民に対して、参加者の声を届けるなど、基金活用の実績・効果をわかりやすく伝えることで、より多くの支援を得られるように工夫していきます。</p>			

平成27年度杉並区事務事業評価表（1）

（00292）

事務事業名称 児童青少年センター・児童館の維持管理			款 04	項 02	目 02	事業 002	整理番号 306			
現担当課名 児童青少年課		係名 管理係	連絡先電話番号 4402		昨年度整理番号 292					
上位施策No・施策名 24 子ども・青少年の育成支援の充実					予算事業区分 既定事業					
事務事業の概要	事業開始	昭和41年度								
	平成26年度担当課名	児童青少年課		事業評価区分		施設維持管理				
	対象	児童青少年センター・児童館・学童クラブ、18歳未満の児童及び保護者、センター及び児童館職員、地域住民の団体		根拠法令等 (1) (2)	児童福祉法第35、45条 杉並区立児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則					
	事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか） 適切な維持管理等により安全かつ快適に利用できる施設とする。	活動指標 指標名（1） 指標説明 指標名（2） 指標説明		年間延べ利用者数（センター及び児童館） 開館日数（センター及び児童館）						
	活動内容（事務事業の内容、やり方、手段） 施設維持管理における契約事務、履行確認、支払事務 施設運営における事務用物品等経費の執行事務	成果指標 指標名（1） 指標説明 指標名（2） 指標説明								
区分	単位	平成24年度 実績	平成25年度 計画 実績		平成26年度 計画（目標値） 実績		平成27年度 計画	平成26年度 対計画比（%）		
指標	活動指標（1）	1 人	1,397,301	1,400,000	1,406,605	1,400,000	1,462,950	1,400,000	104.5	
	活動指標（2）	2 日	13,804	13,917	13,434	13,917	13,314	13,917	95.7	
	成果指標（1）	3								
	成果指標（2）	4								
総事業費・コスト把握	事業費	5 千円	274,603	283,593	270,667	296,138	279,757	301,193	平成26年度 予算執行率（%） 94.5	
	（内）投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	特記事項	
	（内）委託費	7 千円	151,442	162,875	152,523	171,079	157,430	174,317		
	職員数	常勤職員数	8 人	24.15	23.20	24.40	23.00	24.30	23.30	
		再任用職員数	9 人	0.70	0.70	0.00	0.00	0.00	0.00	
		非常勤職員数	10 人	3.60	3.60	1.00	1.00	1.00	1.00	
	人件費	常勤職員分	11 千円	210,105	200,216	210,572	202,630	214,083	205,273	
		再任用職員分	12 千円	2,751	2,702	0	0	0	0	
		非常勤職員分	13 千円	9,900	10,008	2,780	2,830	2,830	2,830	
	総事業費 (5+11+12+13)	14 千円	497,359	496,519	484,019	501,598	496,670	509,296		
	単位あたりコスト (14-6)÷1	15 円	356	355	344	358	339	364		
	財源	受益者負担分	16 千円	4,685	4,986	5,853	5,035	6,058	4,501	
		国からの補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0	
		都からの補助金等	18 千円	0	0	0	0	0	0	
その他の補助金等		19 千円	0	0	0	0	0	0		
特定財源計 (16+17+18+19)		20 千円	4,685	4,986	5,853	5,035	6,058	4,501		
差引：一般財源 (14-20)		21 千円	492,674	491,533	478,166	496,563	490,612	504,795		
受益者負担比率 (16÷14)	22 %	0.9	1.0	1.2	1.0	1.2	0.9			

平成27年度杉並区事務事業評価表（2）

				整理番号	306
平成26年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
		施設保守管理委託	53	施設	148,481
		施設修繕費	53	施設	34,659
		光熱水費			81,248
		その他（電話料・手数料・備品購入 ほか）			15,369
	(2) 事業実績	<p>児童館・学童クラブを安全・快適に利用していただけるよう施設・設備の適正な維持管理を図っています。施設保守管理契約及び備品類の計画的な購入等により、適切な維持管理に努めました。また、施設修繕にあたっては、大規模修繕や学童クラブ改築等の計画と重複しないよう、計画的な修繕を進めました。</p>			
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化				
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）				
	今後の予測				
	評価と課題	<p>施設の経年劣化による修繕や学童クラブ需要増への対応により、施設・設備の適正な維持管理に努めました。児童館は昭和40～50年代に建設したものが大多数のため、施設の老朽化に伴う維持管理経費の増大は、区財政にとって年々大きな負担となっていくことが予想されます。今後、区立施設再編・整備計画に則った児童館施設の再編を段階的に進めていきますが、並行して、児童館維持管理においては修理の緊急度・優先度等を考慮しつつ、計画的な修理に努めることが課題です。</p>			
中長期的な改善・見直しの方向	今後の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性			
		II 事業の改善の方向性			
	今後の進め方				

平成27年度杉並区事務事業評価表（1）

（00302）

事務事業名称 (仮称)和泉第二学童クラブの整備				款 04	項 02	目 03	事業 028	整理番号	313		
現担当課名 児童青少年課		係名 管理係		連絡先電話番号 4402			昨年度整理番号 302				
上位施策No・施策名 24 子ども・青少年の育成支援の充実							予算事業区分 投資事業				
事務事業の概要	事業開始	平成25年度	実行計画事業 目標 05 施策 24 計画事業 02				主要事業（区政経営報告書掲載事業）				
	平成26年度担当課名	児童青少年課					事業評価区分 一般				
	対象	施設管理		根拠法令等	(1)	児童福祉法第六条の三第2項					
					(2)	杉並区立児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則					
	事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか）	学童クラブの入会需要の増加に対応するとともに、行き帰りの安全を確保するため、杉並和泉学園の校舎内に学童クラブを整備する。			活動指標	指標名(1)	学童クラブ整備				
					指標説明						
					指標名(2)						
					指標説明						
活動内容（事務事業の内容、やり方、手段）	杉並和泉学園校舎に新泉学童クラブ移転のスペースを確保し、定員増を図ったうえで和泉学園学童クラブとして開設する。			成果指標	指標名(1)	学童クラブ移転整備による定員の増					
					指標説明						
					指標名(2)						
					指標説明						
区分	単位	平成24年度	平成25年度		平成26年度		平成27年度	平成26年度			
		実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画	対計画比(%)			
指標	活動指標(1)	1	施設		0.2	0.2	0.8	0.8	0.0	100.0	
	活動指標(2)	2									
	成果指標(1)	3	人		5	0	5	5	0	100.0	
	成果指標(2)	4									
総事業費・コスト把握	事業費	5	千円		9,012	9,011	30,921	30,908	0	平成26年度 予算執行率(%) 100.0	
	(内)投資的経費等	6	千円		9,012	9,011	0	0	0	特記事項 平成26年度は建設工事の出来高増により、経費が増となっています。 債務負担行為 平成25年度～26年度 限度額：39,000千円	
	(内)委託費	7	千円		9,012	9,011	29,721	29,721	0		
	職員数	常勤職員数	8	人		0.00	0.10	0.10	0.10		0.00
		再任用職員数	9	人		0.00	0.00	0.00	0.00		0.00
		非常勤職員数	10	人		0.00	0.00	0.00	0.00		0.00
	人件費	常勤職員分	11	千円		0	863	881	881		0
		再任用職員分	12	千円		0	0	0	0		0
		非常勤職員分	13	千円		0	0	0	0		0
	総事業費(5+11+12+13)	14	千円		9,012	9,874	31,802	31,789	0		
	単位あたりコスト((14-6)÷1)	15	円		0	4,315,000	39,752,500	39,736,250	0		
	財源	受益者負担分	16	千円		0	0	0	0		0
		国からの補助金等	17	千円		0	0	0	0		0
		都からの補助金等	18	千円		0	3,323	11,012	11,012		0
その他の補助金等		19	千円		11,000	5,000	0	0	0		
特定財源計(16+17+18+19)		20	千円		11,000	8,323	11,012	11,012	0		
差引：一般財源(14-20)		21	千円		1,988	1,551	20,790	20,777	0		
受益者負担比率(16÷14)	22	%		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

平成27年度杉並区事務事業評価表（2）

				整理番号	313	
平成26年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容		規模	単位	事業費(千円)
		和泉学園学童クラブの整備		1	所	30,908
(2) 事業実績	<p>杉並和泉学園の校舎建設に合わせ、校舎内への学童クラブを整備し、定員を増やしたうえで新泉学童クラブを移転しました。(45人 50人)</p>					
	その他()					
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	<p>学童クラブの需要は年々増加傾向にあります。学童クラブの対象となる児童数そのものは、ほぼ横ばい状況にある中、学童クラブの登録児童数はこの10年間で約1.5倍(平成16年=2,421人 平成26年=3,621人)となっています。また、平成27年度の児童福祉法の改正による、学童クラブの対象児童の全学年への拡大(改正前は概ね10歳未満の児童)もあり、今後も需要は増加していくものと予想されます。</p>				
	事業に対する意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	<p>近年の学童クラブ需要増や、児童が巻き込まれる事件の多発などを背景に、安全・安心な放課後の居場所としての学童クラブづくりが求められており、杉並和泉学園においても、対象校である新泉小学校内にある学童クラブの移設が求められていました。</p>				
	今後の予測	<p>今後も、女性の社会進出による需要の増加や、児童福祉法の改正による対象学年の拡大もあり、学童クラブの需要は増えるものと予想され、和泉学園学童クラブについては、150人程度の規模が必要であると見込んでいます。</p>				
評価と課題		<p>杉並和泉学園の校舎建設に合わせ、校舎内に学童クラブを開設することで、安全・安心を確保するとともに、杉並和泉学園区域における学童クラブの定員増を図ることができました。引き続き、和泉学童クラブの移転整備を着実に進め、杉並和泉学園区域内における育成環境の整備と、今後の需要への適切な対応を図ります。</p>				
中長期的な改善・見直しの方向	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	縮小			
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し(改善)・対象の見直し			
	今後の進め方	<p>平成27年4月の新泉学童クラブの移転による和泉学園学童クラブの開設により、本予算事業は終了となりますが、引き続き和泉学童クラブの移転整備に取り組み、杉並和泉学園区域の学童クラブ整備に努めます。</p>				

平成27年度杉並区事務事業評価表（1）

（00655）

事務事業名称 和泉学童クラブの移転整備				款 04	項 02	目 03	事業 031	整理番号 316	
現担当課名 児童青少年課		係名 管理係		連絡先電話番号 4402			昨年度整理番号		
上位施策No・施策名 24 子ども・青少年の育成支援の充実						予算事業区分 投資事業			
事務事業の概要	事業開始	平成26年度	実行計画事業	目標 05	施策 24	計画事業 02	主要事業（区政経営報告書掲載事業）		
	平成26年度担当課名	児童青少年課					事業評価区分 一般		
	対象	施設管理		根拠法令等	(1)	児童福祉法第六条の三第2項			
					(2)	杉並区立児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則			
	事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか）	学童クラブの入会需要の増加に対応するとともに、行き帰りの安全を確保するため、杉並和泉学園の敷地内に学童クラブを整備する。			活動指標	指標名(1)	学童クラブ移転整備		
					指標説明				
					指標名(2)				
					指標説明				
活動内容（事務事業の内容、やり方、手段）	杉並和泉学園校舎に和泉学童クラブ移転のスペースを確保し、定員増を図ったうえで和泉学園学童クラブとして運営する。			成果指標	指標名(1)	学童クラブ移転整備による定員の増			
					指標説明				
					指標名(2)				
					指標説明				
区分		単位	平成24年度	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
			実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	
指標	活動指標(1)	1 施設				1	0	1	
	活動指標(2)	2							
	成果指標(1)	3 人				26	0	26	
	成果指標(2)	4							
総事業費・コスト把握	事業費	5 千円				12,111	11,880	94,134	
	(内) 投資的経費等	6 千円				0	0	0	
	(内) 委託費	7 千円				12,111	11,880	92,934	
	職員数	常勤職員数	8 人				0.00	0.10	0.10
		再任用職員数	9 人				0.00	0.00	0.00
		非常勤職員数	10 人				0.00	0.00	0.00
	人件費	常勤職員分	11 千円				0	881	881
		再任用職員分	12 千円				0	0	0
		非常勤職員分	13 千円				0	0	0
	総事業費 (5+11+12+13)	14 千円				12,111	12,761	95,015	
	単位あたりコスト (14-6)÷1	15 円				12,111,000	0	95,015,000	
	財源	受益者負担分	16 千円				0	0	0
		国からの補助金等	17 千円				0	0	0
		都からの補助金等	18 千円				0	0	0
		その他の補助金等	19 千円				0	0	0
特定財源計 (16+17+18+19)		20 千円				0	0	0	
差引：一般財源 (14-20)		21 千円				12,111	12,761	95,015	
受益者負担比率 (16÷14)	22 %				0.0	0.0	0.0		
								平成26年度 予算執行率(%) 98.1	
								特記事項	

平成27年度杉並区事務事業評価表（2）

整理番号 316

平成26年度の事業実施状況	内容	規模	単位	事業費（千円）
	(1) 主な取組	和泉学童クラブの移転整備に係る施設設計		
	その他（ ）			
(2) 事業実績	杉並和泉学園の敷地内に和泉学童クラブの移転スペースを確保するための施設設計を行いました。			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	学童クラブの需要は年々増加傾向にあります。学童クラブの対象となる児童数そのものは、ほぼ横ばい状況にある中、学童クラブの登録児童数はこの10年間で約1.5倍（平成16年=2,421人、平成26年=3,621人）となっています。また、平成27年度の児童福祉法の改正による、学童クラブの対象児童の全学年への拡大（改正前は概ね10歳未満の児童）もあり、今後も需要は増加していくものと予想されます。
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	近年の学童クラブ需要増や、児童が巻き込まれる事件の多発などを背景に、安全・安心な放課後の居場所としての学童クラブづくりが求められています。
	今後の予測	今後も、女性の社会進出による需要の増加や、児童福祉法の改正による対象学年の拡大もあり、学童クラブの需要は増えるものと予想され、和泉学園学童クラブについては、150人程度の規模が必要であると見込んでいます。
評価と課題	和泉地域の学童クラブについて、杉並和泉学園内で一体的に運営するための考え方、具体的取組を確定することができました。引き続き、和泉学童クラブの移転整備を着実に進めることで、杉並和泉学園区域内における育成環境の整備と、今後の需要への適切な対応を図ります。	

中長期的な改善・見直しの方向	今後の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	拡充
		II 事業の改善の方向性	実施主体の見直し・対象の見直し
	今後の進め方	和泉学童クラブの移転（平成28年4月から和泉学園学童クラブとして運営）に向け、引き続き施設の整備を行っていきます。また、和泉学園学童クラブは新泉・和泉の2クラブの統合となるため、最適な運営方法等についての検討も進めます。	

平成27年度杉並区事務事業評価表（１）

（ 00305 ）

事務事業名称		学童クラブの整備			款	04	項	02	目	03	事業	037	整理番号	319		
現担当課名		児童青少年課			係名	管理係			連絡先電話番号	4402		昨年度整理番号	305			
上位施策No・施策名										24 子ども・青少年の育成支援の充実		予算事業区分			投資事業	
事務事業の概要	事業開始	平成24年度			主要事業（区政経営報告書掲載事業）											
	平成26年度担当課名	児童青少年課			事業評価区分									一般		
	対象	施設管理			根拠法令等	(1)		児童福祉法第六条の三第 2 項								
						(2)		杉並区立児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則								
	事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか）	学童クラブの需要増に的確に対応するため、児童館の一部諸室を育成室等へ転用し、学童クラブ受入れ枠拡大を図る。			活動指標	指標名（ 1 ）		用地取得学童クラブ数								
					指標説明		改修工事実施児童館数									
活動内容（事務事業の内容、やり方、手段）	児童館の一部諸室を育成室等へ転用する改修工事を行う。			成果指標	指標名（ 1 ）		児童館改修による受入れ枠の拡大数									
					指標説明											
						指標名（ 2 ）										
						指標説明										
区分		単位	平成24年度	平成25年度		平成26年度		平成27年度	平成26年度							
			実績	計画	実績	計画（目標値）	実績	計画	対計画比（%）							
指標	活動指標（ 1 ）	1	施設	1	0	0	0	0	0.0							
	活動指標（ 2 ）	2	施設	0	0	3	6	7	116.7							
	成果指標（ 1 ）	3	人	0	0	84	157	185	117.8							
	成果指標（ 2 ）	4														
総事業費・コスト把握	事業費	5	千円	230,003	33,000	32,809	97,899	96,574	0	平成26年度 98.6 予算執行率（%）						
	（内）投資的経費等	6	千円	230,003	33,000	32,809	0	0	0	特記事項 平成24年度は、本事業で桃五学童クラブの用地取得を行いました。 平成26年度は改修児童館数増により、経費が増となっています。 債務負担行為 平成25年度～26年度 限度額：7,000千円						
	（内）委託費	7	千円	0	33,000	32,809	97,899	96,574	0							
	職員数	常勤職員数	8	人	0.10	0.00	0.10	0.10	0.10						0.00	
		再任用職員数	9	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						0.00	
		非常勤職員数	10	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						0.00	
	人件費	常勤職員分	11	千円	870	0	863	881	881						0	
		再任用職員分	12	千円	0	0	0	0	0						0	
		非常勤職員分	13	千円	0	0	0	0	0						0	
	総事業費 (5+11+12+13)	14	千円	230,873	33,000	33,672	98,780	97,455	0							
	単位あたりコスト (14-6)÷1)	15	円	870,000	0	0	0	0	0							
	財源	受益者負担分	16	千円	0	0	0	0	0						0	
		国からの補助金等	17	千円	0	0	0	0	0						0	
		都からの補助金等	18	千円	0	0	0	0	0						0	
その他の補助金等		19	千円	0	0	0	0	0	0							
特定財源計 (16+17+18+19)		20	千円	0	0	0	0	0	0							
差引：一般財源 (14-20)		21	千円	230,873	33,000	33,672	98,780	97,455	0							
受益者負担比率 (16÷14)	22	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0								

平成27年度杉並区事務事業評価表（2）

				整理番号	319	
平成26年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容		規模	単位	事業費(千円)
		改修工事(桃井、宮前北、井草、松庵、高井戸、永福南、善福寺北)		7	施設	96,574
(2) 事業実績	学童クラブの需要増に対応するため、児童館の一部諸室を改修して育成室等へ転用し、受入枠の拡大を図りました。					
	その他()					
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	学童クラブの需要は年々増加傾向にあります。学童クラブの対象となる児童数そのものは、ほぼ横ばい状況にある中、学童クラブの登録児童数はこの10年間で約1.5倍(平成16年=2,421人、平成26年=3,621人)となっています。また、平成27年度の児童福祉法の改正による、学童クラブの対象児童の全学年への拡大(改正前は概ね10歳未満の児童)もあり、今後も需要は増加していくものと予想されます。				
	事業に対する意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	近年の学童クラブ需要増や、児童が巻き込まれる事件の多発などを背景に、安全・安心な放課後の居場所としての学童クラブづくりが求められています。				
	今後の予測	今後も、女性の社会進出による需要の増加や、児童福祉法の改正による対象学年の拡大もあり、学童クラブの需要は増えるものと予想されます。				
	評価と課題	児童館の改修による受入枠の拡大に取り組むことにより、増加する学童クラブの需要に対して、適切な対応を図ることができました。今後も学童クラブの整備にあたっては、学校内への設置を基本としながら、増加する需要にも対応していくため、適切な需要見込みに基づく、計画的な施設整備を図っていきます。				
中長期的な改善・見直しの方向	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	拡充			
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し(改善)			
今後の進め方	今後も、改修により育成室への諸室転用が可能な児童館について、需要動向を見極めながら、受入枠の拡大による対応を図ります。					

平成27年度杉並区事務事業評価表(1)

(00327)

事務事業名称 未成年者の飲酒・喫煙・薬物乱用の防止			款 04	項 05	目 01	事業 023	整理番号 345				
現担当課名 健康推進課		係名 健康推進係	連絡先電話番号 4524			昨年度整理番号 327					
上位施策No・施策名 24 子ども・青少年の育成支援の充実						予算事業区分 既定事業					
事務事業の概要	事業開始	平成17年度									
	平成26年度担当課名	健康推進課					事業評価区分 一般				
	対象	喫煙防止対策：主に未成年者とその保護者・関係者 飲酒・薬物乱用防止対策：主に未成年者とその保護者・関係者		根拠法令等 (1) (2)	健康増進法第25条 杉並区における喫煙対策指針						
	事業の目的・目標(対象をどのような状態にしたいのか)	未成年者・保護者および関係者に対して、飲酒・喫煙・薬物乱用防止の普及・啓発を行い、未成年者が飲酒・喫煙をしないようにする。また、薬物に対する規範意識が高まり、薬物に安易に手を出さないようにする。		活動指標 指標名(1) 指標説明 指標名(2)	未成年者の喫煙防止ポスター・標語の応募数 講演会参加者数						
	活動内容(事務事業の内容、やり方、手段)	小学5年生から中学3年生に対し、喫煙防止標語・ポスターを募集し、優秀作品を表彰する。未成年者喫煙防止ポスターを作成し、関係者及び施設に配布、掲示する。 学校・保健センター等への教材及び普及啓発用品の作成及び配布を行う。		成果指標 指標名(1) 指標説明 指標名(2) 指標説明	中学生の喫煙経験がある割合 中学生の「飲酒・喫煙・薬物についての調査」より(平成25年度実施) 中学生の飲酒経験がある割合 中学生の「飲酒・喫煙・薬物についての調査」より(平成25年度実施)						
区分		単位	平成24年度実績	平成25年度計画	平成25年度実績	平成26年度計画(目標値)	平成26年度実績	平成27年度計画	平成26年度対計画比(%)		
指標	活動指標(1)	1	点	993	600	1,430	1,500	735	1,000	49.0	
	活動指標(2)	2	人	110	100	0	100	62	100	62.0	
	成果指標(1)	3	%	3.0	0.0	3.5	0.0	3.5	0.0	0.0	
	成果指標(2)	4	%	29.0	20.0	28.0	20.0	28.0	20.0	140.0	
総事業費・コスト把握	事業費	5	千円	708	765	747	782	760	861	平成26年度予算執行率(%) 97.2	
	(内)投資的経費等	6	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項	
	(内)委託費	7	千円	5	30	30	10	10	10		
	職員数	常勤職員数	8	人	0.16	0.37	0.41	0.43	0.44	0.40	
		再任用職員数	9	人	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	
		非常勤職員数	10	人	0.55	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	人件費	常勤職員分	11	千円	1,392	3,193	3,538	3,788	3,876	3,524	
		再任用職員分	12	千円	0	386	0	0	0	0	
		非常勤職員分	13	千円	1,513	0	0	0	0	0	
	総事業費(5+11+12+13)	14	千円	3,613	4,344	4,285	4,570	4,636	4,385		
	単位あたりコスト((14-6)÷1)	15	円	3,638	7,240	2,997	3,047	6,307	4,385		
	財源	受益者負担分	16	千円	0	0	0	0	0	0	
		国からの補助金等	17	千円	383	374	382	401	510	429	
		都からの補助金等	18	千円	0	0	0	0	0	0	
その他の補助金等		19	千円	0	0	0	0	0	0		
特定財源計(16+17+18+19)		20	千円	383	374	382	401	510	429		
差引：一般財源(14-20)		21	千円	3,230	3,970	3,903	4,169	4,126	3,956		
受益者負担比率(16÷14)	22	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

平成27年度杉並区事務事業評価表（2）

整理番号 345

平成26年度の事業実施状況	内容	規模	単位	事業費（千円）
	(1) 主な取組	未成年喫煙防止普及啓発（ポスター及び標語募集・カレンダー作成）	1,300	点
	飲酒・喫煙・薬物乱用防止対策（普及啓発用品・教材配布）	5,396	枚	385
	その他（ ）			
(2) 事業実績	区内小・中学校を対象に、未成年者の喫煙防止の標語・ポスター募集を行い、優秀な作品を表彰し、翌年度のカレンダー（ポスター）とし、区内全小中学校に配布しました。 区立小学校6年生との区立中学校2年生を対象に、喫煙防止教材を配布しました。 区立小中学校保健主任会で、未成年の喫煙、飲酒防止の取り組み報告し、協力を依頼しました。			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	未成年者への飲酒・喫煙対策については、対面販売で年齢を確認するなど業界の自主規制がこの数年大きく進んできています。また、未成年者のタバコの購入を抑制するため、平成20年度から成人識別カードが導入されました。また、平成22年にはたばこの値上げが行われています。平成25年に「杉並区がん対策推進計画」が策定され、その取組課題の1つに「たばこ対策の強化」が掲げられました。このなかでも、未成年者の喫煙防止対策の充実が求められています。
	事業に対する意見（事業に対する期待・要望・苦情など）	平成25年度に実施した区内中学1、3年生を対象とした飲酒・喫煙・薬物に関する意識調査の結果から、喫煙経験率は平成23年度に比較すると中学1年生で若干増加しています。（2.4% 2.9%）。今後、喫煙率が増加しないよう、学校および家庭での喫煙の有害性についての教育が必要になります。また、近年薬物が容易に手に入る状況にあるため、学校・地域保健等と連携を図りながら普及啓発を進める必要があります。
	今後の予測	未成年の喫煙対策については、学校教育の中で標語やポスター作りを通して普及が根付いてきました。一方、飲酒経験は喫煙に比べても高い傾向にあるので、さらに啓発を重ねる必要があります。また、未成年期からの飲酒や、喫煙経験が薬物乱用につながる傾向があることから、薬物乱用防止の活動との連携が重要です。
評価と課題	未成年がたばこを入手することを困難にするための社会的対策があるものの喫煙率0にはならないのが現状です。未成年喫煙防止のためには学校での教育を充実させるとともに、身近な大人の卒煙対策などの取り組みが必要となります。	

中長期的な改善・見直しの方向	今後の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持
		II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
今後の進め方	主に喫煙を中心に普及啓発に取り組んできましたが、未成年の飲酒や薬物についても普及啓発が必要です。特に、薬物に関しては他課とも協力して取り組む課題となります。		